長崎医療センター
NAGASAKI MEDICAL CENTER NEWS

専齋 SENSAI

2023 JANUARY VOL.409

発行所
独立行政法人国立病院機構
長崎医療センター
〒856-8562
長崎県大村市久原2丁目1001-1
TEL 0957-52-3121
FAX 0957-54-0292

院長年頭所感
幹部職員　新年のご挨拶
年男・年女の今年の抱負

長與 専齋（1838年～1902年）
大村藩御殿医の家系に生まれる。緒方洪庵の適塾に学び、福澤諭吉の後を襲い塾頭となる。初代衛生局長として我が国の近代医療制度の確立に尽力した。衛生という言葉をはじめて採用したのも専齋である。専齋の生家は「宜雨宜晴亭」と呼ばれ、長崎医療センター敷地内に移築されている。

院長年頭所感

飛躍

院長　八橋 弘

新年、あけましておめでとうございます。

昨年もコロナが猛威を振るい、夏には当院でも悪戦苦闘の日々が続きました。その一方で、ゴールへと吸い込まれていくボール、ライン上に微かに残ったボール、森保ジャパンを応援する多くの若者、彼らの3年ぶりの歓喜と満面の笑みを見て、私たちは一歩ずつコロナ前の生活へ戻りつつあると思いました。

医療では、この1月から電子処方が始まり、今年はDx化の導入も、働き方改革も本格化する年です。長崎医療センターでは、患者さんの心に向き合い患者さんの人生を大切にする病院、職員にとって働き甲斐のある病院、困難な時には職員同士で支えあう病院にしてゆきたいと思います。

さて、今、放映中のNHK朝ドラでは、長崎と大阪を舞台に多くの人の人生が映し出されています。「できんことは、次、できるようになればよか。そっで、できんなら、できることば探せばよかとよ」「失敗ばすっとは、悪かことじゃなか」「自分のことば知っちょる人間が一番強かけん。変わりもんや変わりもんで堂々と生きたらよか」「決して間違えるな。なぜパイロットを目指したんだ。それを思いだせ」これらのセリフは人生の応援歌のようで、私は時々心の中で暗唱しています。ドラマの最後はどうなるのか、今から楽しみです。

私にとって昨年は出発の年でした。今年は飛躍の年にしたいと思います。

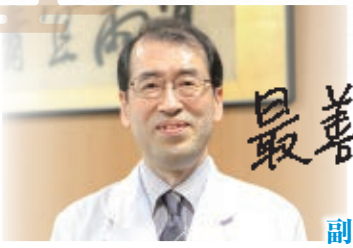
今年もどうぞ宜しくお願いします。

長崎医療センターの使命

長崎医療センターは以下の活動を誠実に行い、
地域拠点病院として住民と医療機関からの信頼を得る。

1. 安全で質の高い医療を提供する
2. 救急医療の最後の砦となる
3. 地域の医療機関、行政と密接に連携する
4. すべての医療人と学生に魅力的な教育研修を提供する
5. 臨床研究を推進し、国際医療協力に貢献する

新年のご挨拶（幹部職員）



最善を尽くす

副院長　吉田 真一郎

新年あけましておめでとうございます。

まず年末年始の救急、重症の患者さんにご対応いただいた職員の皆さん、ありがとうございました。お疲れ様でした。

昨年も新型コロナ対応に明け暮れた1年となりました。1月からオミクロン株による第6波、そして7月からその変異株による大きな第7波が到来し、当院でも多くの陽性患者さんの診療にあたるなか、一時は複数の病棟が閉鎖になるなどの影響も受けましたが、各診療科、各部署の皆さんの一致団結した対応で、無事に乗り切ることが出来ました。改めて職員の皆さんに感謝を申し上げます。

社会では、「withコロナ」にむけた取り組みが進み、これまでの制限は緩和され、新しい生活様式へと向かっています。医療におきましても、引き続き通常医療との両立を図りつつ、地域の期待に応えるようさらなる診療機能の充実と、地域医療構想も見据えた地域との医療連携の強化、また喫緊の課題であります働き方改革の推進にも、最善を尽くし取り組んで参りたいと思います。どうぞよろしくお願い致します。

今年が皆さんにとりまして、より良い一年となりますよう、心よりお祈り申し上げます。

仕事は楽しく

副院長　黒木 保

新年あけましておめでとうございます。皆さまには、令和5年新春を大きな希望をもってさわやかにお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

昨年は4月に病院幹部が交代し新体制での病院運営となりました。私も昨年9月に副院長に就任し新たに医療安全の業務が加わりました。個人的には医療安全に取り組む中で多くを学ばせていただき、多少なりとも成長できたと感じております。医療安全の現場では、改めて患者さんお一人お一人と正面から向き合う姿勢の重要性を再認識しました。医療安全は患者さんが安心して医療を受けられ、我々職員が安心して仕事に取り組めるための礎であり、ひいては、地域住民の皆さんの安心につながると考えています。

病院運営における私の思いは、職員の皆さんが楽しく仕事ができて、患者さんが少しでも笑顔になれる明るい病院であることです。皆さんの変わらぬご支援をいただき病院全体で「一体感」を醸成し、危機的状況に際してもベクトルを1つにできる力強い病院を目指したいと思います。

今年は卯年です。うさぎの大ジャンプのごとく皆様にとりまして大きな飛躍の年になることを祈念いたします。今年もよろしくお願いいたします。

視る よく、正しく

統括診療部長　本村 秀樹

新年のお慶びを申し上げます。

旧年中は大変お世話になりました。今年もどうぞよろしくお願いいたします。

with コロナとなり、穏やかな世界となることを祈ります。

今年はよく「視る」を心がけていきたいと思います。みるには色々な意味が含まれています。どこかできいたことがある内容と思いますが、「見る」は自然に目に入ってくること、「視る」は目に入ったものを理解する、意図してみるという意味があるそうです。診療においても視診は大事な技術です。重要な情報を得られますが、印象だけでは誤った判断につながります。正しく「視る」も必要です。新たな職に就いて、色々な景色をみる機会が増えました。しかし、気が付いていない世界がまだまだ多くあります。自分の目でまわりをよくみまわして、患者さんには過ごしやすく、医療者には最良な働きができる環境を提供できるように心がけていきたいです。

新年のご挨拶（幹部職員）

和顔愛語

看護部長　西山 ゆかり

新年あけましておめでとうございます。

一年の計は元旦にありといいますが、「和顔愛語」の実践を掲げました。これは釈迦が唱えた無量寿経の中の言葉ですが、和やかな笑顔と愛のある言葉で、世の中を明るく照らしていくという意味だそうです。日本には、言霊という概念がありますが、普段使っている言葉のひとつひとつに相手に大きな影響を与える力が宿っていると思うと、自分の口から出る言葉は、心をあたたかくするようなものでありたいなと思います。

当院の目標の一つに、「お互いをリスペクトし、助け合う文化の醸成」があります。これから働き方改革がすすみ、各セクションにとどまらず、多職種で地域医療に貢献していくことが求められていますが、お互いを思いながら、承認しあっていけるような関係の質を、益々高めていくことができればと思います。その人らしさを大切に、看護部一丸となって取り組んでまいります。今年もどうぞよろしくお願いいたします。

先々の先 臨機応変

事務部長　大門 勇作

新年あけましておめでとうございます。

令和5年が当院と職員の皆様にとってすばらしい一年となりますよう祈念します。

昨年は一昨年と同様にコロナに始まりコロナで終わった感が強く、これがすでに日常なのか非日常なのかさえわからないところです。それでも少しずつではありますがコロナ禍前に戻りつつあるのを実感しています。

さて、私の好きな言葉の中に「先々の先（せんせんのせん）」と「臨機応変」があります。

「先々の先」は剣道用語であり意味は試合をする際、双方が勝負に前のめりなっている場合に、相手の目の動きや顔の表情・身体の動き等で相手の起こりを見極めて、相手が攻撃を仕掛ける前にこちらから攻撃するという剣道の極意です。簡単に言えば相手を注意深く観察して相手の考えを察知して先に行動に移すということだと思います。

もう一つは「臨機応変」です。意味は場面に応じて、型どおりの処置にとらわれず適切な対応がとれることですが、言うほど簡単ではなく、私にとって常日頃から力不足を痛感させられる永遠のテーマだと感じております。

令和5年の目標として「先々の先」のごとく上司・同僚・部下を気遣いつつ先に先に行動を起こし、機に応じた対応がとれるように努力していきたいと思います。

今年もどうぞよろしくお願いします。

年男・年女の今年の抱負

新年明けましておめでとうございます。癸卯の年ですので、脳神経外科医として跳ね上がれるよう、チャレンジの年にしたいと思っています。

近年の医療技術は進歩が著しく、デバイスとITを活用した低侵襲手術を積極的に取り入れ、良質な医療を提供できるよう研鑽したいと考えています。

脳神経外科医師　内田 大貴

新年あけましておめでとうございます。

臨床検査技師になって、2年が過ぎようとしています。

今年は、昨年よりも多くの学会や勉強会に参加して大きく飛躍できる年にしたいと思っています。

臨床検査技師　栗原 博未